

漢字に求められる役割と教育

笹原宏之（早稲田大学）

0 はじめに 3つの観点から

1 社会

漢字の**多様性**・**柔軟性**の理解を
読み手に対する**配慮**を
書き手に対する**寛容**を

2 マスメディア

読み取りやすさに関する配慮を
受け取り手に対する**効用**に関する意識を

3 学校

漢字の**本質**に関する教育を
漢字の**魅力**を学びつつ伝達を
漢字から他のことまで理解する**応用力**の育成を

1 社会における漢字 ——円滑な情報交換のために

文字生活において、漢字のもつ**多様性・柔軟性**を理解し、
使用時には自由度をふまえつつ他者に**配慮**し、
受容時には意図を想像して**寛容**に受け入れる
という余裕ある姿勢が広まることが望ましい。
デジタル化による字形の**パターン認識**の進展と、**手書き**の
大切さ



パソコン・ケータイで字を打つときの意識
相手や内容に応じて**その場に最適な文字**を選ぶ

仮名か漢字か　　うつ：鬱

どの漢字か　　探す：捜す

読みにくい漢字の表現には、**読み仮名**も活用する

・名付け

電子政府の進展に伴い、全戸籍に**読み仮名**を付けることに。

（法制審議会 戸籍法部会）

名前の機能

- ・個人を識別するための**記号**
- ・名付け親の思い入れ・願い・個性の**表現**

制度であるとともに伝統文化

新規の読みでも社会に受け入れられて習慣化すれば、**名乗り訓**に。

初見の読み方に対して、

根拠ありとわかる → 受け入れる

根拠なしとわかる → 受け入れない

という傾向がある。根拠があっても命名権などの権利濫用や公序良俗に反する場合には制限も。

字義よりも発音や字面が醸し出す**イメージ**に流されやすい傾向も。

名の持つ社会性をふまえ、将来に対する**想像力**を喚起する必要。

2 マスメディアにおける漢字

テレビ字幕 日本放送協会（NHK）の場合

瞬時の読み取りやすさを重視

視聴者の違和感を少なくするように

くり → 栗 とら年 → 寅（とら）年

十二支の「子丑寅卯」などは、ひらがな表記では読み取りにくい
ため、読みがな付きで字幕を示すことに。

雪ぴ → 雪庇（せっぴ） *意味の説明も加える。

五臓六ぶ → 五臓六腑

交ぜ書きを減少させる。

平易な漢字を示すことで、読書と同様に教育的な効果が生まれる。

ただし、「ひっ迫」は「逼迫」では読みにくい、このままがいいという意見が多いなど、個別に対応する必要がある。

3 学校教育における漢字

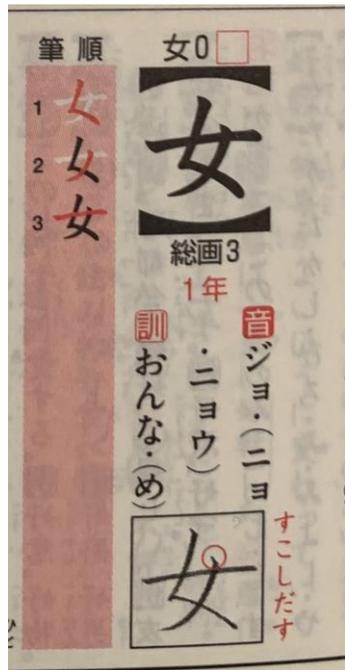
上述した社会での状況を早い段階から徐々に伝えていくとよい。
漢字の本質は、表語という機能にあることを教える。

→ 語彙教育との連動が重要

- ・ 示差特徴ではないトメハネ・長短で「×」とする評価を行わない
文字としての本質、戦後一貫した漢字政策と手書きの習慣に基づいて作成された「常用漢字表の字体・字形に関する指針」に準拠し、表内では「とめ・はね」はデザインの差にすぎないと考える。

教室の中だけの「〇」に、実質的な意味はなく、検定試験や入学試験も変わってきている。教員は、自身が習ったことを受け継いで教えるだけでなく、不要な因習は断ち切ることも重要。

虫眼鏡、顕微鏡、物差しを用いた評価がトラウマになっている学生・高齢者も。その正解・不正解の判断に、ゆらぎない根拠はあるか？



『光村小学新漢字辞典』

2007年初版

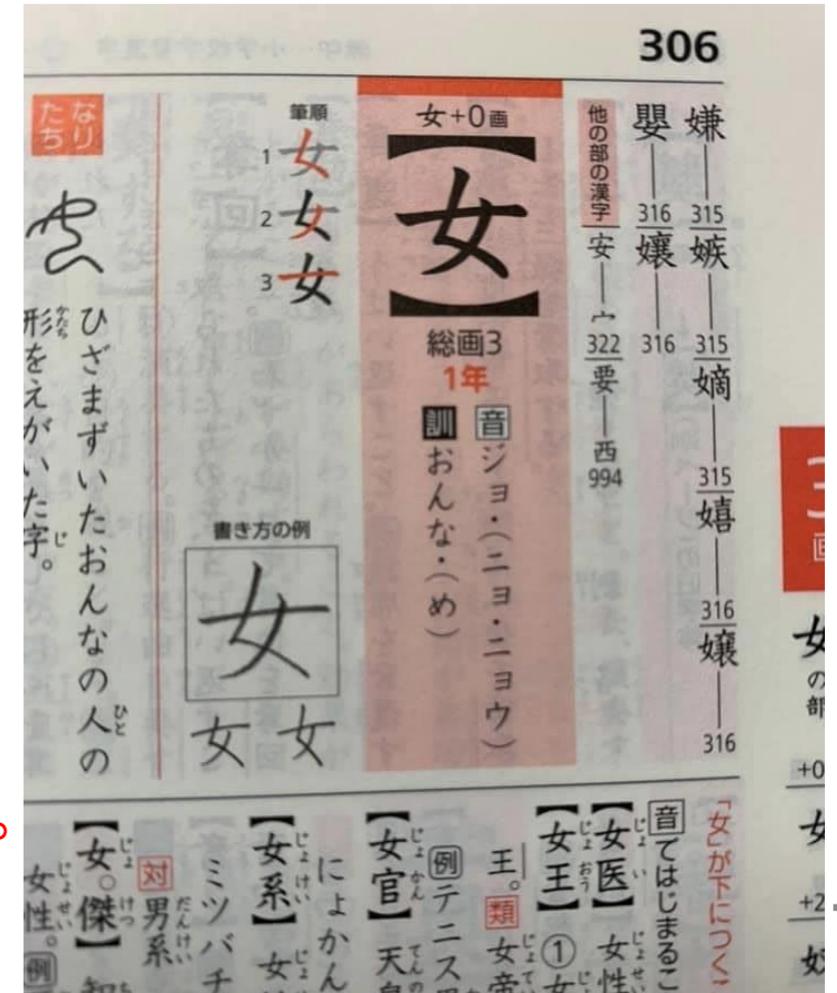
すこしだす

「女」

2019年三訂版

「指針」から
ゆれを明示

出さない字形
を併記。



教員も字形の一定の揺れは漢字の懐の広さという魅力として捉え、指導と評価を行うとよいのでは。

ただし他者には習慣を意識して丁寧に書く配慮の必要性も教える。

書写の時間では、手本を参照し、文字をきちんと整えて書くように指導する。

普段の書き方や書き取り試験の採点・評価とは区別する。

美醜・巧拙・丁寧か雑か・字体の正誤をレベル分けして評価する。

内容を他者に伝達するために配慮しながら書く姿勢を涵養する。

・ 文法・語彙・文字による表現と関連付ける

漢字は、自己表現だけでなく**コミュニケーションツール**であり、書風を含めた字形も情報交換の一環であることを教える。

文法 熟語の構成・同訓異字・送り仮名・仮名遣いに関連することに気付かせる。「不足」「計測」「話・話し」

書道では、手本を臨書する段階から、過去からの多様な芸術的・創造的な美まで表現世界が広がっていることを伝える。

美術以外でも**活字**（デジタルフォントを含む）の字形との違いを教える。

活字の字形は、手書き字形を様式化したものにすぎなかった。

流通している活字の字形を手書きの手本にしすぎない。

筆順も、絶対ではなく目安くらいのもの。

教科書・指導書に加えて、適切な書籍を使って研鑽する。

・習った漢字をまとめ、捉え直す時間を設ける

才・歳 小・中の**連携**を
博 薄 簿 専 恵 穂 / 溥

「甫」（木）を含むから、「音読みハ行は点」という法則を教え
ると、形声文字の概念とリンクし、**応用力**も付く。

既習漢字の総括により、漢字の体系性を意識させ、今後の新出漢
字にも対応できるように。

迷 謎 遡 飢 饑 箸 箸

国語以外の教科の字や表外字に触れる。天保の大飢饉 箸墓古墳
日本語教育の場でも配慮が必要。

裸 理科・生物との**連携**を 「裸子植物」「被子植物」はとも
に「衣偏」と一言添えるだけで。

沖積平野 地学 この「沖」は「おき」でなく、「ぶつかる」意。

語彙と字義について学ぶ。

宿題 私語 「やど」「わたくし」でなく、「まえもって」「ひそ
かに」という意だった。

- ・ **未習字を書いても（打っても）叱らない**
 - 一律の発達段階観に捉われず、学習内容を応用させ現実社会に近づける。諸媒体との**接触が理解字を生む**ので、学校内でも読み仮名を活用することで交ぜ書きを減らす。戸籍も漢字と読み仮名を一体運用する方向に。児童・生徒は、**間違えては覚え直す**ことを繰り返して成長する。習った漢字は必ずその漢字で書かせる、という必要はない。その場ごとに表現として**最適な文字**がある（1つとは限らない）。
- ・ **間違えた漢字を直して10回書かせる、という指導法を再考する**
 - 機械的に体で覚えさせることの強制に、心理的な反発も。「漢字嫌い」が生まれる一因。パーツ分け、2本持ちなど不正的な行為が横行し、教育効果も高くはない。別のことに対する懲罰として行わせることは、苦行感を増幅させる。10回と決めず、当人が理解し記憶したと**納得するまでに**。

・ 誤字の意味を考えさせる

誤字は悪い、と**決めつけない**。

理由がわかれば間違えを繰り返さない。

俊足・駿足 → 瞬足

商品名の影響

才色兼備 → 菜食健美

生活環境の変化、商品名の影響

檸檬

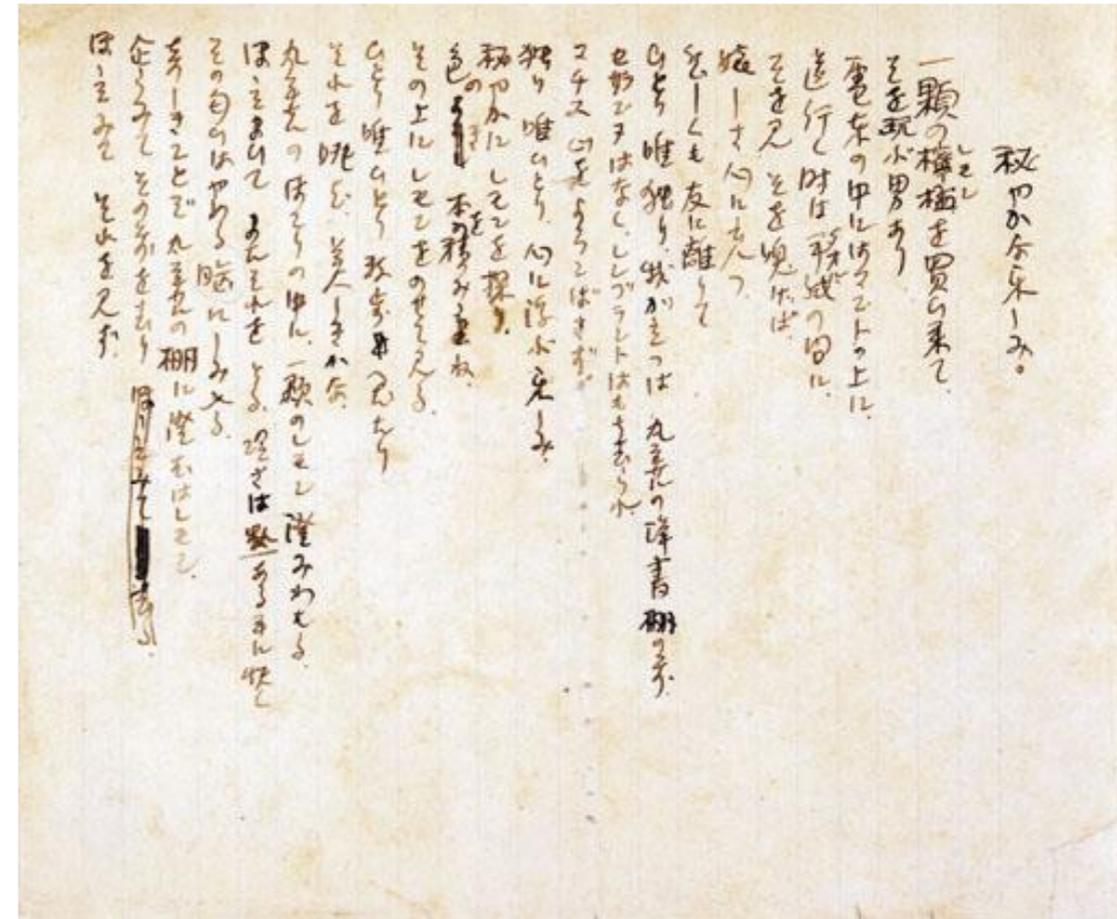
作家であるが、梶井基次郎自身は

原稿で書き間違えていた。

レモンは「獐猛」と字体が似ているから爆発すると梶井は妄想した？

個人の文字と教える 教材の魯迅『故郷』に「獠」（チャー） 注記

や指導で「魯迅の造字」「形声文字」と加えると漢字の**理解**に効果。



実践女子大所蔵

・各メディア・街中の文字の観察を行う

国語表現、文学国語、言語文化、古典探究

表現や言語などに関する用例を**観察・採取・考察**

「探究型学習」 高校新指導要領

古典・地理・日本史を**総合的かつ主体的に**学ぶ

言語景観には、生活の中で触れる漢字が含まれている。

広く**看板・貼り紙・石碑・手紙**なども対象に据えてみる。

身近な人にその字で表記する理由などを**聞いてみる**。

当て字 珈琲 亜米利加

表記ゆれ 卵・玉子

略字 職 曜 権

崩し字・草書 事 前

漢字の歴史、筆法、自然な運筆、筆順の意味に触れられる。

・方言漢字（地域文字）について考える

主に地名に見られる。

地域社会への理解と愛着を育む。

新泻（潟） 中轉（なかずり 東北に多い「そり」ではない） 鮎谷（かじかだに
「鮎」ではなく、「谷」も読みが「や」ではない） …

和可（哥・歌）山 榎川（ほくそがわ 江戸から明治期「木酉火」など 造字に
関する伝承も） 龍龍（てち 龍神の方言） …

古典、社会科（歴史・地理・郷土史）などとの連携

郷土研究による地元の伝統文化、生活文化への着目

鱈田 三条市立図書館の蔵書に「ただだ」という方言（訛語）による地名という伝承。

稼地 広島県甲田町の文化センターの蔵書に「すくもじ」、「庄屋が作った」との伝承。

4 おわりに

漢字という文字は、語を表記し伝達するだけでなく、字面に表情や風景が感じられたり、繊細な意味やニュアンスを帯びている。その上、あらゆる文化を担い、造語力も豊かで、多様な**魅力**を備えている。

それだけに漢字を絶対視してしまうと、使用者も受容者もそれに飲み込まれ、使いこなせない人がダメだ、と**即断する風潮**が強まる。

漢字の魅力に押し流されず、情報社会の中で柔軟に付き合い、**コミュニケーションツール**としても適切に使っていけるように、一人一人が**根拠となる事実**を学び、しっかりと**考え、伝えていく**必要がある。

参考文献

- | | | |
|----------------|----------|------|
| 笹原宏之 『日本の漢字』 | 岩波新書 | 2006 |
| 『方言漢字』 | 角川ソフィア文庫 | 2020 |
| 『漢字ハカセ、研究者になる』 | 岩波ジュニア新書 | 2022 |

